

MOVE YOUR HEART!

進路通信最終号

今日は卒業式。

いつまでも「何事もなく平凡に」経過することはありません。特に災害の多い国土で、日ごとに変化していく現代の情報化社会において、戦争をしている国の影響を受けながら、山あり谷ありの青春時代を過ごすのですから。どんな物事でも「これは想定内」と思わなければなりません。

これからの人生、そんな環境の中で生き抜いていく力は身につけていますか？

大丈夫！

武義高で得た友人があなたを助けてくれるでしょう。

武義高で努力したことがあなたに自信をもたせてくれるでしょう。

武義高での生活のすべてが経験値となってあなたを支えてくれるでしょう。

だから、まっすぐ未来に向かって突き進んでいってください。

ちょっと疲れた時だけ、振り返って武義高校を思い出してください。

武義高校はあなたを優しく包んでくれるはずです。

あなたの母校ですから。

《当面の進路に関する行事》

3 / 1 (金) 卒業式

5 (火) 第一次選抜検査 (高校入試) 11 (月) 第一次選抜追検査 14 (木) 合格発表

12 (火) 登校日・考査返却

19 (火) 進級認定会議

21 (木) 第二次選抜検査 25 (月) 第二次選抜合格発表

22 (金) 終業式・離任式

4 / 9 (火) 始業式・着任式・入学式

《卒業生のみなさんへ》

- ・卒業しても3月31日までは皆さんの籍は武義高にあります。軽はずみな行動は厳に慎んでください。「関係ない」というわけにはいきません。
- ・進学先から大学入学共通テストの受験票の提出を求められることがあります。
- ・調査書や成績証明書などの各種証明書は4月1日より有料となります。4月以後の発行には申請用紙と手数料が必要です (県内すべての公立高校で)。武義高や岐阜県のHPを見て、所定の手続きをしてください。発行には時間もかかります。「今ほしい」と言われても無理です。学割も同様です。電話でもよいので必ず事前に担任の先生に連絡しておいてください。
- ・進路決定先や受験の結果を知らせてください。連絡がない場合、こちらから電話で確認することもあります。使わなかった調査書は返却してください。小論文、面接があった人は受験レポートもお願いします。また赤本や入試問題を寄付してくれる人は進路まで持ってきてください。
- ・3月は入検の関係で登校禁止の日が多数あります。在校生も卒業生も該当します。また、校舎内で立入禁止の場所もあります。変更もあり得ますので注意してください。不明な場合は学校に問い合わせてください。登校禁止だけれど「どうしても」の場合、書類等の受け取りや進路の報告や相談は「校門の外で」となります。まずは電話してください。

《在校生のみなさんへ》

授業のない日々が続きます。夏休みと同じくらい長い期間です。宿題や苦手科目の克服、得意科目の伸長は当たり前ですが、それに加えて何をしますか。

「自分の心を遊ばせ、なにかを見つけてみましょう。レジャーではありませんよ。心身を解放して自分の見聞を広げ、自分の教養を深めるのです。身近な疑問、素朴な興味にしたがって行動してみましょう。調べてみる、話してみる、聞いてみる、行ってみる、まとめてみる、報告してみる、何でもありです。自主的に課題を見つけ、自分で探究する、その力が求められているのです。」

と、自宅学習期間に入る前の3年生に伝えました。在校生も同じです。どんなことでもいい。「学年末レポート」として完成させてみませんか。

進路探究を存分にできる期間でもあります。春のオープンキャンパスの案内冊子を配布しました。どこも充実したHPを載せていますが、実際に目で見て耳で聞いて肌で感じるが一番です。オープンキャンパスの日でなくても、構内を散策することはできます。周辺的环境も確かめつつ自由に歩いてみませんか。

正規のオープンキャンパスに参加する場合はきちんとした姿勢で行きましょう。例えば「友達の付き添い」であってもどんな縁があるかわかりません。密かに高校生を評価している場合もありますよ。「制服で」とまでは言いませんが、意欲と興味を持って学生らしく参加してください。

《おまけ》4年前、3年生の学年通信に載せたものを再掲します。

ある高校に勤務していた時のことだ。その高校では学校の近くのグラウンドを借りて部活動をしていたのだが、3月末のある日の夕方、「しっかり整地されていない」という苦情電話があった。仕方なく一人でトンボを引きに行った。作業が終わりかけた頃、グラウンドに一人の男がふらっとやってきた。何年か前に卒業した部員だった。不思議な気がした。向こうも私が一人であるのが意外だったらしく「あっ、先生」と言う。「おう、久しぶり。こんな時間にどうした？」と聞くと、「実はオレ、明日から外国へ行くんです。」と言う。「それで、もう日本には戻ってこないと思うんで、今日が日本にいる最後の日になるかもしれないんです。だから自分のいた場所を見ておこうと思ってここに来たんです。」と答えた。思わぬ展開に驚いたが、私はその時、彼の気持ちがなんとなくわかった気がした。だからなのか、「そうか、そうか」と言いながら、特にくわしい事情は聞かなかったように思う。まだ若かった私はどんな言葉をかけたらいいいのかわからなかったただけかも知れない。ただ二人で黙って、美しい夕焼けをしばらく眺めていた。胸の中があたたかいもので満たされていたことを覚えている。「じゃあ、失礼します。」と言って彼は去って行った。「ああ、元気でな。またいつでも帰って来いよ。」私はそれだけ言って彼の背中に手を振った。彼は振り返らなかった。

それから30年以上になる。その後彼とは会うことも、連絡を取ることもなく時が過ぎた。会うことはないだろう。彼は在学中私にとって特別な生徒だったわけではないし、私も彼にとって特別な先生だったわけではなかったと思う。でもあのとき彼と共有した時間を、私は今も忘れない。

卒業式後のHRで「何年何月何日何時何分に私はここに来ます。」とみんなに宣言した生徒がいた。「だからあなたも来てください。」とも言った。10年後くらいのある日を指定した気がする。しばらくは私もその日を覚えていたが、いつの間にか忘れてしまった。もうその日は過ぎてしまったはずだ。申し訳ない。ただ宣言したことで彼女がその日まで生き抜く糧を得るなら、応援したいと思った。その日を糧にしたクラスメイトがいたかもしれない。彼らを今でも応援している。

未来は自分で作るものだからだ。